

誰一人取り残さない未来のために 就活生の「知りたい」をぶつけてみた！



○さん 入部 6 年目
(児童相談所・一時保護所職員)



ㄗさん 入部 4 年目
(児童相談所・児童福祉司)



ㄇさん 入部 7 年目
(女性相談支援センター職員)

福祉の現場で働く職員と、福祉を学ぶ学生が一堂に会し、リアルな声を交わしました。 現場の実態から、仕事の魅力、課題まで、率直な対話から見えてきた福祉の今とこれから

—まず、職員の皆さんの業務内容について教えていただけますか？

職員 T (児童福祉司): 私は児童福祉司として、子供や保護者から相談を受けて、家庭訪問や面接などを行い、課題解決に向けた支援を行っています。ご家庭に関わっていく中で、親子関係が改善していく様子が見られたりすると、やりがいを感じますね。

職員 O (一時保護所職員): 私は様々な理由で家庭から離れることになった子供たちの生活を支えています。虐待のケースもあれば、非行が理由で警察から来るケースもある。決して素直とは言えない子供たちですが、安全な生活を確保しながら、行動観察やアセスメントを行い、次のステップに向けての支援を行っています。

職員 M (女性相談支援センター職員): 私の職場では、主に 10 代、20 代の若年女性への支援を行っています。特に繁华街で支援を必要とする方々に対して、

民間団体と協力しながら事業を展開しています。行政の敷居は高いので、相談に来る前の練習をしてみようなど、様々な取り組みをしています。

—福祉職に必要なスキルについて、どのようにお考えですか？

職員 O: 情報を分析し評価するアセスメント力は非常に重要です。表面的な行動に対する判断も必要ですが、そこに至るプロセスを理解することがより重要です。児童相談所では様々な機関と連携して包括的なアセスメントができ、この経験はどの領域でも生きてきます。

職員 T: 私が大切にしているのは関係性の構築です。信頼関係ができないと本音の話は聞けません。最初は否定や指導は控えめにして、困りごとに寄り添うことから始めます。また、心理職や医師など、多職種で連携してアプローチすることも重要です。

職員 M: 支援の方法は現場によって本当に様々です。支援対象の方々は福祉の世界の住人ではないので、その方々の生活圏に合わせた対応が必要になります。約束を守れるかどうかという、一見単純なことも重要なアセスメントポイントになったりします。

学生 O: アセスメントの視点が支援の現場によってそれぞれ異なるというのは、とても勉強になります。私たち学生は、まだ机上の学びが中心なので。

学生 Y: 確かに！「支援はこうあるべき」みたいな固定観念がありましたが、実習に行って、一人ひとりに合わせた柔軟な対応が必要だと気付きました。

職員 T: その気づきは素晴らしいですよ。理論は大切ですが、実際の支援は教科書通りにはいきません。でも、だからこそやりがいがあるんです。

—福祉の仕事の魅力について教えてください

職員 T: 人生を通じて関わることです。例えば、児童相談所で関わった方が大人になって助けを必要とした時、児童福祉の手は離れていても、他の福祉の分野が寄り添うことができます。その方の人生の大切な時期に支援することができる仕事なので、責任も重いけれど、大きな魅力です。

職員 M: その通りですね。私自身児童相談所で関わった方に女性支援の立場で再びお会いすることがあり、「あの時話したこと覚えています」と言ってもらえて。成果は目に見えづらいものですが、そうした小さなやりがい大きな原動力になる仕事だと思っています。

学生 H: 実習であまり成果を出せず悩んでいましたが、お話を伺って一層福祉の仕事に関心を持つことができました！

職員 M: 東京都は「誰一人取り残さない社会の実現」を目標に掲げています。分野ごとに支援の形は様々でも、人に向き合い、寄り添い、一緒に課題を乗り越えていく福祉職の仕事は、そんな未来に確実につながっていく仕事だと思っています。



—働く上で大切なことはありますか？

職員 M: やるときはしっかりやって、休むときはしっかり休む。これが長く続けるコツだと思います。私の部署は比較的休みやすい環境です。

職員 O: 児童福祉司の時は、自分の予定に合わせてスケジュールを組める反面、長く休みを取ると担当ケースの進行に影響するので難しい面はありました。今は職場として計画的な休暇取得が推進されています。精神論で頑張れという雰囲気は全くありません。私は釣りが趣味で、定期的に船に乗って海でボーッとする時間を作っています。

学生 Y: 私はアルバイトでも、帰宅したら仕事のことは考えないようにしています。

職員 T: それ、すごく大事です！ぜひその習慣は続けてください。私なんかもっと見習わないと(笑)。

福祉系の学部で学ぶ現役大学生の皆さん / 座談会を終えて、学生のコメント



学生 H さん (大学 3 年)

大変な仕事にやりがいを持って働いている様子に感銘を受けました。これからの学生生活でしっかり準備していきたいと思っています。



学生 O さん (大学 3 年)

福祉の仕事の多様性と可能性を知ることができました。人生のどの段階でも支援できる仕事だと実感しました。



学生 Y さん (大学 2 年)

児童福祉の現場の実態を知ることができ、より一層この道に進みたい気持ちが強くなりました。残りの学生生活で、できることをしっかり学んでいきたいと思っています。